

# 紀要

## 草津市・北谷古墳群L地点出土埴輪について

— 湖南地域出土埴輪資料の基礎的検討 — ..... 辻川 哲朗 (1)

## 横穴式石室の構築原理を考える

— 研究ノート：岩橋型石室を題材として — ..... 堀 真人 (15)

福林寺12号墳の墳丘測量調査報告 ..... 宮村 誠二 (28)

近江出土の渡来銭貨 (2) ..... 小島 孝修 (33)

近江における中世備前焼の基礎集成 ..... 山口 誠司 (49)

長浜市八雲書院資料調査報告〈瓦編3〉 ..... 福井 知樹 (57)

## 三次元データを歩く

— 三次元データの利活用を目指して — ..... 福井 知樹 (73)

37

## 福林寺 12 号墳の墳丘測量調査報告

宮村 誠二

### 目次

1. はじめに
2. 福林寺古墳群の概要
3. 調査に至る経緯と調査の目的・体制・方法
4. 墳丘測量調査の結果
5. おわりに

### — 論文要旨 —

本稿は、野洲市小篠原に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地（福林寺古墳群）の範囲内において、令和 4 年度に新規発見された福林寺 12 号墳を対象に実施した墳丘測量調査の結果報告である。

測量調査を実施したことにより、情報量の少ない福林寺古墳群にかかる新たな情報が得られ、同時にそれを資料化することができた。測量調査によって得られた情報から、当該古墳は直径約 11.5 m の円墳で、北西方向に開口する横穴式石室を内蔵する可能性を指摘した。

### ——— キーワード

古墳時代 野洲市 福林寺古墳群 新規発見古墳 墳丘測量調査

## 1. はじめに

本稿は、令和 4 年度に周知の埋蔵文化財包蔵地である福林寺古墳群の範囲内において新たに発見された、福林寺 12 号墳の墳丘測量調査結果を報告するものである。

## 2. 福林寺古墳群の概要（図 1・2）

福林寺古墳群は、野洲市小篠原に所在する後期群集墳である。野洲駅の東方 1.5km に位置し、田中山の西麓、野洲中学校東側の小支谷に立地する。

当古墳群では 11 基の古墳が周知されており（滋賀県 2022）、『野洲町史』では、「いずれも横穴式石室を内部にもつ円墳群である。古墳の半ばは、その径が 10 m 以上と大きく、なかには直径 20 m 前後を測るものが含まれている」と紹介されている（野洲町 1987、p324-325）。

筆者らが令和 2 年度に古墳群の様相把握を目的として実施した付近一帯の踏査では、周知の 11 基以外にも古墳の可能性がある地形の高まりを複数箇所を確認することができた (1)。古墳群中には横穴式石室が開口した状態のもの（福林寺 1 号墳・4 号墳）も認められる (2)。

当古墳群をめぐるのは、野洲中学校付近に存在が推定され、白鳳期の創建とされる福林寺との関係が注目されており（小笠原 1989）、古墳群の造営主体と福林寺の創建主体を同一とみる見解も示されている（野洲町 1987）。

現地には、福林寺に関わるとみられる遺構として、田中山西麓の斜面に平坦面が 4～5 段連続して認められる。この付近には鎌倉時代～室町時代の摩崖仏や一石五輪塔が点在していることから、寺域背後の墓域に相当すると考えられる。現地の地形は、墓域をはじめとする寺院関連施設の整備に伴い改変されている可能性が高く、付近一帯には、こうした後世の開発行為により消滅した古墳があった可能性も大いに想定される。

## 3. 調査に至る経緯と調査の目的・体制・方法

田中山の山中を流れる中ノ池川支流は、平成 28 年に土砂災害警戒区域に指定されている。周辺には、野洲市の指定緊急避難場所である野洲中学校をはじめとした保全対象が位置していることから、土石流が発生した場合に大きな被害の出る可能性が想定されている。

このため、現地では滋賀県により中ノ池川支流砂防事業として、中ノ池川支流補助通常砂防（総流防）が実施されている。この事業では、透過型砂防堰堤と工事用道路兼管理用道路の建設が計画されたが、事業予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地（福林寺古墳群）が含まれることから、公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、令和 2 年度から当該事業に伴う福林寺古墳群（2 号墳・3 号墳）の発掘調査を実施してきた。発掘調査は、おもに筆者が担当した。

今回、墳丘測量調査を実施した福林寺 12 号墳は、令和 4 年度に工事用道路兼管理用道路建設工事の進捗過程にお

いて道路建設予定地内で不時発見されたものである。

福林寺古墳群内における今回の事業予定地については、当該事業の実施に先立つ開発調整段階に滋賀県教育委員会事務局文化財保護課（当時）および野洲市教育委員会文化財保護課の担当職員による現地確認が実施され、その際に確認された古墳についてはこれを避けて工事用道路兼管理用道路のルート設定がなされた。

しかしながら、今回発見された 12 号墳は土砂の堆積や流失により本来の形状が不明瞭であったことから踏査では確認されず、工事の際に表土が掘削され、石室の構築部材とみられる石材が露呈したことにより不時発見されたものである。

なお、当該古墳は筆者らが実施した踏査でも確認し得ていなかったものである。

福林寺古墳群については、『野洲町史』の挿図や野洲市の文化財担当職員であった花田勝広氏が著された論文の挿図として古墳分布図が掲載されているほか（野洲町 1987・花田 1999）、花田氏によって 4 号墳の石室実測図が公表されているものの（花田 1999）、情報量は乏しい状況にある。

そうしたなかであって、将来的に福林寺古墳群の発掘調査報告書において 2 号墳・3 号墳の調査結果を総括し、両古墳の位置づけを明らかにするためにも、近在の 12 号墳にかかる情報が重要であることはいうまでもない。

当該古墳については、滋賀県文化スポーツ部文化財保護課が記録作成を行うなど適切に対応されることと考えたけれども、2 号墳・3 号墳の調査担当者である筆者自身もまた現地観察を行い、様相を把握する必要があると考えたため、現況記録の作成を目的とする墳丘測量調査を実施することとした次第である。

墳丘測量調査は、令和 5 年 3 月 21 日に当協会辻川哲朗・小林裕季と筆者の 3 名で実施した。古墳の周囲に任意に設定した基準点にもとづき、平板測量により縮尺 100 分の 1 の測量図を作成した。また、後日実施した基準点測量には、当協会三好佑佳の協力を得た。

なお、作成した墳丘測量図に示した水準高は、東京湾平均海面高度に、座標系および方位は世界測地系における平面直角座標第 VI 系にそれぞれ則っている。

## 4. 墳丘測量調査の結果（図 3、写真 1）

12 号墳は 2 号墳の南約 20 m にあり、古墳群の中では最も南に位置する (3)。中ノ池川支流を挟んだ対岸に張り出した尾根の先端に立地し、標高は 129 m 前後を測る。

12 号墳が立地する尾根の北側は、谷底を流れる中ノ池川支流に向かって急勾配の傾斜面となっている。墳丘の北側から西側にかけては、斜面下方にあたるため土砂の流出が著しく進んでいる。さらに、墳丘測量調査時には、工事用道路兼管理用道路の造成範囲が直近にまで及んでおり、墳丘の北西側では古墳発見の契機となった工事によって部



図1 福林寺古墳群位置図 (S=1:25,000)



図2 福林寺古墳群古墳分布図 (S=1:2,500)



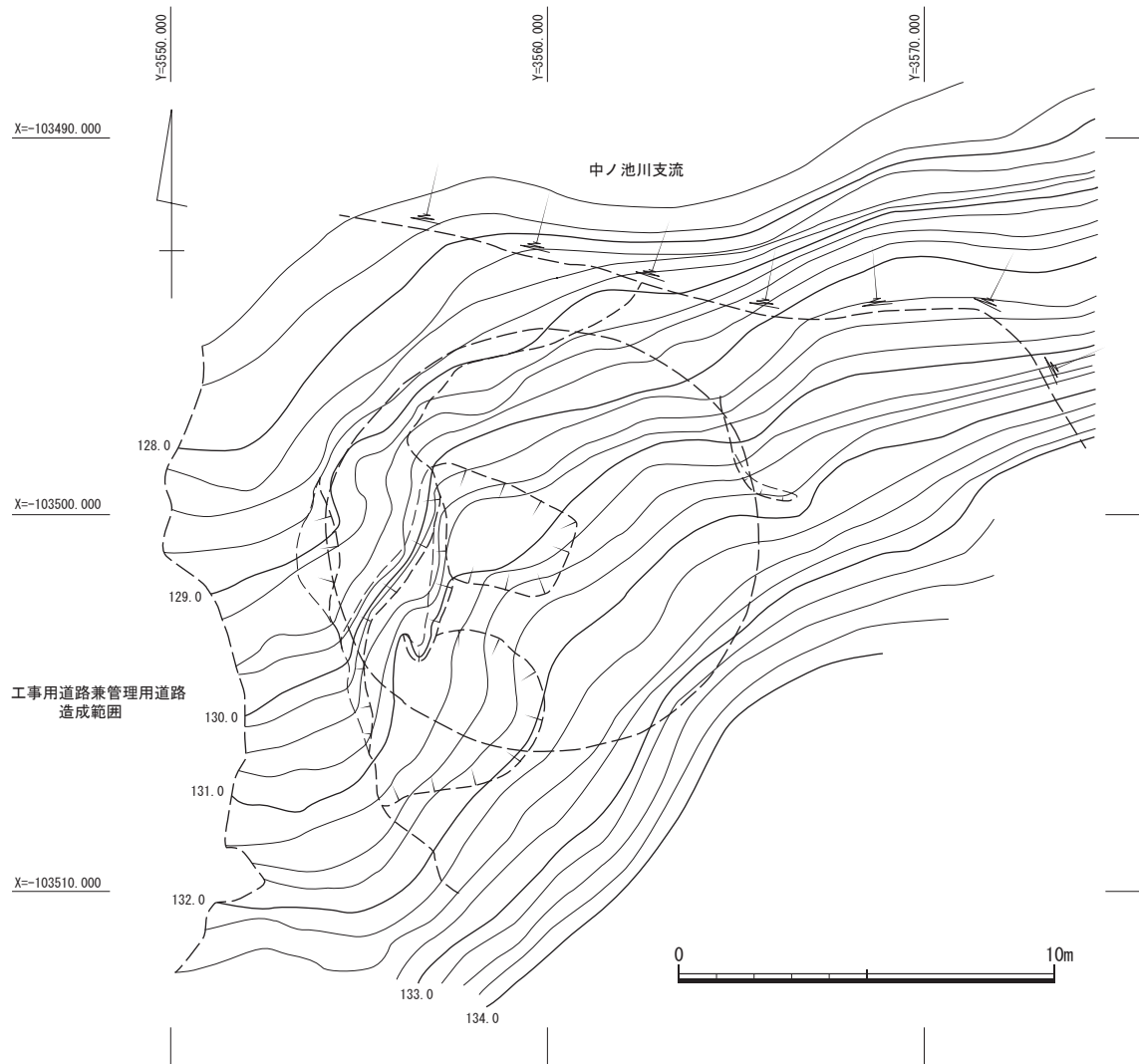


図 3 福林寺12号墳墳丘測量図 (S=1:200)



写真 1 福林寺12号墳全景(北西から)

分的に表土が削り取られ、石室の構築部材とみられる複数個体の石材（花崗岩）が露呈した状態であった。

いっぽう、墳丘東側の遺存状態は比較的良好とみられる。墳丘の北側から東側にかけて弧状の窪みが認められる。この窪みが墳丘裾の形状を反映していると推測できるので、墳形は円墳と目される。これにもとづき墳丘規模を復元すると、直径は約 11.5 m となる。北西側の墳裾は、標高 129 m 前後にあるとみられ、そこから計測すると、墳丘高は現況で約 4 m である。

残存する墳丘の頂部は、比較的緩やかな傾斜面となっており、想定される墳丘範囲の中央やや西寄りの位置に 4 m × 2.5 m の方形の窪みが認められた。石室の構築部材とみられる石材との位置関係から、主体部上の土砂が落ち込んで形成された可能性を想定できる。以上から当古墳の埋葬施設は、北西方向に開口する横穴式石室と考えられる。

表面観察によるかぎり、埴輪や葺石、列石等の外表施設は確認できず、遺物も採集できなかった。

## 5. おわりに

以上、周知の埋蔵文化財包蔵地である福林寺古墳群の範囲内において新たに発見された福林寺 12 号墳を対象に実施した、墳丘測量調査の結果を報告してきた。

測量調査によって得られた情報から、当該古墳は直径約 11.5 m の円墳とみられ、北西方向に開口する横穴式石室を内蔵する可能性を指摘できた。

今回、測量調査を実施したことにより、いまだ情報量の少ない福林寺古墳群にかかる新たな情報が得られ、同時にそれを資料化することができた。今後、整理調査を経てとりまとめる予定の福林寺古墳群（2 号墳・3 号墳）の発掘調査報告書では、今回の測量調査結果も踏まえて調査結果を総括し、両古墳の位置づけを示す所存である。

なお、福林寺 12 号墳については、筆者らが墳丘測量調査を実施したのち、令和 5 年 6 月 15 日に滋賀県文化スポーツ部文化財保護課により墳丘測量調査が実施された。この調査結果は『令和 5 年度滋賀県埋蔵文化財調査報告書』において公表される予定である。

当該古墳は現地保存されることとなり、工事用道路兼管

理用道路の造成に伴う盛土の下で保存されている。

## 註

- (1) 踏査は令和 3 年 3 月に当協会辻川哲朗・小林裕季・筆者が実施した。
- (2) 4 号墳の横穴式石室は、奥壁の石材が一部失われ、開放している。
- (3) 本稿で示した福林寺古墳群の古墳分布図は、『野洲町史』や花田氏が示された古墳分布図を参照して作成した。その際に気になったのが 1 号墳の位置である。すなわち、『野洲町史』や花田氏の古墳分布図では、1 号墳が今回報告している 12 号墳に近い位置に示されているのである。本稿で示した古墳分布図では、2 号墳・3 号墳・12 号墳を現地測量したうえで世界測地系における平面直角座標第 VI 系に則って配置した。作成当時の認識や測量精度等に起因して差異が生じたのであろうか。なお、花田氏が提示した古墳分布図では、2 号墳の西側にも古墳の存在が示されており注目される。

## 文献一覧（著者名・機関名 50 音順、刊行年順）

- 小笠原好彦（1989）「福林寺跡」『近江の古代寺院』真陽社
- 滋賀県文化スポーツ部文化財保護課編（2022）『令和 3 年度滋賀県遺跡地図』滋賀県
- 花田勝広（1999）「古代野洲の古墳群（1）」『野洲町立歴史民俗資料館研究紀要』第 6 号
- 野洲町（1987）『野洲町史』第 1 巻通史編 1

## 挿図典拠

- 図 1 国土地理院数値地図 25000「野洲」をベースマップとして筆者作成
- 図 2 野洲市都市計画図をベースマップとして、野洲町 1987 および花田 1999 掲載の福林寺古墳群古墳分布図を参考に筆者作成
- 図 3 墳丘測量調査で作成した測量図を筆者製図
- 写真 1 筆者撮影

（みやむら せいじ：調査課 主任技師）

**ANNUAL BULLETIN**  
**of**  
**Shiga Prefectural Association for Cultural Heritage**  
**Vol.37 2024.3**

私たちは文化財をとおして  
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会  
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages